



寺地教授 新学部長に決定



10月23日に開催された第934回商学部教授会で寺地孝之教授（54歳、国際金融論・金融史専攻、博士（商学））が次期学部長に選出されました。任期は2014年4月から2016年3月まで。

寺地教授は1982年、本学商学部を卒業。1987年に同大学院商学研究科博士課程後期課程を満期退学。1988年に関西学院大学商学部専任講師に就任し、1998年同教授。「国際金融論」、「金融史」等を担当。商学部教務主任、教務部長等の役職を歴任されています。

研究業績では『近代金融システム論』などファイナンスに関する著書・論文は多数に上り、学会活動においては経営史学会評議員等を歴任されています。

新執行部紹介

学部長	: 寺地 孝之教授
研究科副委員長	: 林 隆敏教授
副学部長(主として教務担当)	: 岡村 秀夫教授
副学部長(主として学生担当)	: 山口 隆之教授
学部長補佐(主として教務担当)	: 伊藤 秀和教授
学部長補佐(主として学生担当)	: 田中 裕幸教授
学部長補佐(主として情報担当)	: 伊藤 正範教授

杉原教授 最終講義

2013年3月末で退職される杉原左右一教授の最終講義が以下の日程で開催されます。

日時：2014年1月9日（木）

5時限(16:50~18:20)

教室：商学部本館1階5号教室

講義タイトル：「統計学と私」

榊原教授 最終講義

2013年3月末で退職される榊原茂樹教授の最終講義が以下の日程で開催されます。

日時：2014年1月6日（月）

4時限(15:10~16:40)

教室：商学部本館1階5号教室

講義タイトル：「道半ば－教育も研究も－」



私が薦めるこの1冊 川端 基夫教授

『無印都市の社会学－どこにでもある日常空間をフィールドワークする－』



著者：近森高明・工藤保則編
出版社：法律文化社 2013年
ISBN: 9784589035318

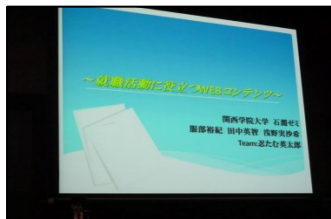
コンビニ、ショッピングセンター、パチンコ店、居酒屋、カラオケ店など、私たちが日常的に目にする街の風景は、いわば消費空間の風景である。

このような空間をテキストとしてフィールドワークしてみようというのが、本書のコンセプトだ。フランパン、ツタヤ、ブックオフといった馴染みの店から、フリマ、音楽フェス、そしてお寺の境内まで、ありふれた風景の「意味」が読み解かれていく。本来は社会学の入門書なのだが、商学部で学ぶ君たちにも一読の価値がある。





石淵ゼミ 『Student Innovation College 2013』 受賞



優勝チームのプレゼン風景

11/30(土)に法政大学で『Student Innovation College 2013』(Sカレ委員会主催、毎日新聞社・UUSOO SYSTEM 共催、略称「Sカレ」)の最終プレゼン大会がありました。Sカレとは、マーケティングを学ぶ学生と企業との産学連携商品開発コンペで、2013年は全国28大学から約420名の学生が参加しました。

石淵ゼミからは6チームが参加し、株式会社マイナビ主催「就職活動に役立つWEBコンテンツ」部門で、浅野実沙希・田中英智・服部裕紀(商学部3年)のチームは1位を頂き、商品化を進めることになりました。

また、株式会社碩学舎主催「1からの学生生活」部門で、上田将迪・坂田栞・中野海地(商学部3年)のチームは、受賞には至らなかったものの提案内容をご評価頂き、電子書籍の商品化を進めていくことになりました。



石淵ゼミ(大会終了後 法政大学での全体懇親会)

商学論究 発行

『商学論究』第62巻2号を発行しました。
是非ご一読ください。



教員紹介

岡田 太志教授



保険論を専攻しています。きっかけは恩師との出逢いで、当時、それはとても衝撃的なものでした。以来、保険経済現象の研究に従事し、ここ2年間

は、学外の研究者や業界の方々と、生活保障システムと生命保険産業の将来像に係る共同研究を進めています。

社会科学の使命は、現代的課題に何らかの処方箋を描くことにあり、そのためには、社会の動向や諸現象を洞察し分析する能力の養成が必要条件です。いつの頃からか、専門の保険研究という「窓」を通して社会を俯瞰するようになったと感じています。以来、それまで観えていなかったものが時に観えてきたり、当たり前、常識と考えていたことが、実は真実では無い、としばしば気づかされるようになりました。これも学問研究の面白さではないでしょうか。

阪 智香教授



過去500年にわたって経済活動の評価尺度であり続けた会計は、わたしたちに経済的な発展をもたらしてくれました。しかし一方で、企業の利益の追求が、環境

問題や社会問題を生み出してもきました。会計は、本来、わたしたちを豊かにするための学問です。現実世界のさまざまな意思決定や資源配分に用いられる会計であるからこそ、わたしたちの豊かさに直結するこれらの問題を柔軟に取り入れていくことが必要なのです。そのために「私」は何ができるのか、研究を通して問い続けています。みなさんにも、みなさんにしかできないことが必ずあります。あなたの溢れる若さと力強さと能力で、自らを鍛えることで、Mastery for Service を実践できる人として巣立ってけると期待しています。

